

# 市民の皆さんと仲よしになりたいの

私の手紙を読んでね

私、カルガモのカル子です。富士川河口鳥獣保護区に住んでいます。

ここには、たくさん仲間が住んでいるけど、「最近周りが騒がしくなって住みにくくなったなあ」という仲間がふえてきました。

そこで、富士川河口のことを市民の皆さんに知ってもらい、なんとか住みよい環境を取り戻したくて、私が代表して手紙を書きました。

## 八百年も暮らしてきました

おじいちゃんから聞いた話ですが、八百年ぐらい前に、ここで源氏と平氏の「富士川の合戦」があったそうです。そのとき平氏は、私たち水鳥の飛び立つ音にびっくりして逃げ出したのですが、そんな昔から私たちの祖先がたくさん住んでいたのです。

ここはえさがあるし、広いので大勢の仲間が休めます。お父さんとお母さんが結婚して、私が生ま

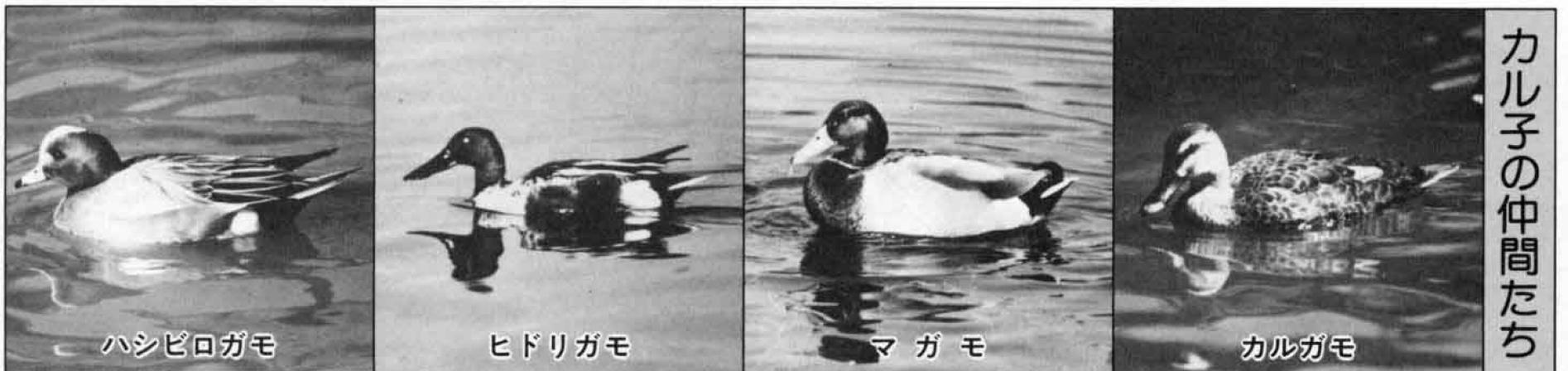
れたのもこの富士川河口なんです。

## 捕まる心配は

ありません

私の住んでいる富士川河口は、私たちを鉄砲やわなから守り、家族をふやすため、昭和五十四年に鳥獣保護区になりました。区域は、国一富士川橋から下流の堤防の内側全部です。

狩猟の始まる十一月十五日には浮島ヶ原の友達もやってきます。



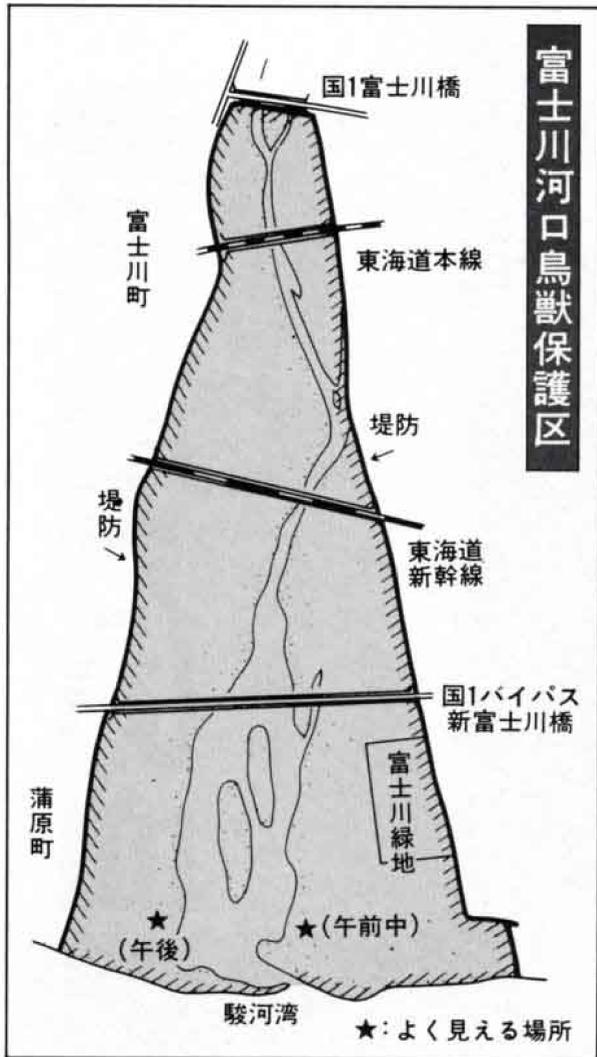
カル子の仲間たち

ハシビロガモ

ヒドリガモ

マガモ

カルガモ



△鳥さんたちと仲よしになりたいな

### みんな集まる

#### 富士川河口

日本には、私たち野鳥の仲間が五百種ぐらいいますが、富士川河口には、百六十六種の皆さんが来たって聞いています。

ここは日本列島のほぼ真ん中にあるから、北へ南へと旅をするシギさんやチドリさんが春と秋に寄っていきます。冬には、たくさんのカモさんやカモメさんがやって来て、春まで私たちと暮らします。だから冬が一番にぎやかです。

ツクシガモさんとか、珍しいお客さんが来たときは、遠い国の話を聞くことができます。

### 心臓がどきどき

#### しちやいます

私たち水鳥は、一番河口の湖のような所や中洲で、休んだりえさを食べていることが多いんですが、時々ウインドサーフィンやジェット



鳥さんたちと仲よしのついで

トスキーが入って来て驚かされます。みんなびっくりして一斉に飛び立ちますが、心臓がどきどきして寿命が縮んでしまいます。

草原に住んでいるキジさんたちは、モトクロスやオートバイが走り回って怖いって言ってました。それから、ごみの不法投棄、ラジコン飛行機、グライダーとか、私たちもストレスがたまっています。

### 遊びに来て

#### 仲よしになろう

私たち、はずかしがりやだけど、仲よしになってほしいんです。仲よくなれば、きっと私たちの気持ちをおわかってもらえると思います。

冬は寒いから厚着をして、十倍ぐらいの双眼鏡でのぞいてください。名前も調べてもらいたいので、図鑑があると便利です。

よく目につく仲間を、下の写真で紹介します。ぜひ遊びに来てください。

日曜日はほとんど、富士川河口などへ野鳥を見に行きます。いつも見える鳥がいると安心するし、珍しい鳥を見つければうれしいし、富士川では、ワシタカの仲間のミサゴが、五十センチぐらいの魚をつかまえるのを見たこともあります。富士川にも大井川にあるような、野鳥を見る施設がほしいですね。



ヨサギ



ユリカモメ



オナガガモ



カワアイサ

問い合わせ  
みどりの課  
内線二四二七